

ゼフィルス越冬卵の採卵記

苦木 隆 幸

我が会の年間行事の一つとして、計画実施した採卵記を思いのまゝに記したい。

播州の温暖の地、周りを山に囲まれ豊かな自然環境に恵まれた所に位置する、播磨蝶友会は、活動の場を主として兵庫県南斜面に求めている。

したがって中国山脈以北の北斜面の様子が適確に把握されていない。月々の例会には北の探究の話題は良く出るのであるが、採集シーズン到来ともなると探究よりも採集が優先し、手近かなところからとなり、なかなか実行できないのである。

そこでシーズンオフの一日を選んで温泉町に、フジミドリ・ヒサマツミドリ、の採卵に行くことになった。目標を定めても、なかなか目標通りにならないのが世の常であり、我が会も個性豊かなユニークな人の集まりであるので……。

専門知識を有する、I氏。O氏。学者肌のH氏。以下採集することに意義があり、腹一杯にならなければ満足しない人まで、同レベルではなく、どちらかと言うと縦に長いつながりをもったグループである。

このような母集団が、ある目標らしきものを与えられて行動するのであるから結果は目標とはほど遠いものになってしまうのである。

4月上旬、桜花乱満の播州路をあとにして生野峠から国道9号線へと出る。兵庫県の屋根と言われる山々にはまだ残雪があり、早春の感ひとしおである。

車中では2台の車に分乗したそれぞれのグループで、経験談や研究報告等の勉強会？がもようされている。春來峠を越えると温泉町である。湯村温泉を通過し、しばらく行くと菅原方面に行く分岐点に出る。

国道9号線からはずれ山道に入っていく、思ったより道はよく整備され、小さな部落が点在している中を縫うようにして車を走らせると、部落のはずれぐらゐから谷川ぞいにウラジロガシが目につくようになる。

斜面の残雪もしだいに量を増し、予想以上に雪が多いので採卵が困難であろうことに一瞬緊張がよぎる。「二兎を追うものは一兎も得ず」で雪深い急斜面のヒサマツミドリはあきらめ後日にまわし、フジミドリ、に焦点を合せ、更に車を進める。目指す菅原は標高1300メートルの扇ノ山の北東3キロメートルにあり550メートルの標高である。

車を止め、登山準備をする道端の雪は60センチもあり扇ノ山への登山道は蝶屋の装備でアタックできない。

周囲に目をやると東向きの斜面に、ブナの樹林帯が確認できる。樹令はどのくらいか私の知識ではさだかでないが、こけむす樹皮、周り2メートルは有にある老木である。

そのブナ林の外周を取り巻くようにして尾根沿いに、ミズナラ、コナラ、マンサク、等が群生し、見るからに食指が動き胸おどる。採卵行動の中で期待と可能性と夢とがミックスして、一番楽しいひとときであろう。

いよいよ行動開始。全員で簡単なミーティングをやりたい思いの角度から登って行く。

山に放された猟犬の如く、健脚揃いであるので、あっと言う間に林の中に消えてゆく、と思いきや、もうミズナラの枝間から得意満面の顔がのぞく。

小生も、遅れてはならじと斜面の枝ぶりの良さそうなミズナラを調べると、頂芽の基部からジョウザンの卵が発見された。一本の木についての分布は、上段の梢、中段の枝、下段の枝、平均してバラツキている。ジョウザンに、まじってアイノも発見できるが、その割合は10:1ぐらいで断然ジョウザンが多い。

又、アイノは木の上段の天にそびえている雄々しき枝を好むらしく下段からの発見はなかった。

エゾもいるはずだから調べて下さいと言うH氏の言葉も、「上の空」、すべすべしたミズナラの枝や分岐点には、とてもついていそうもない錯覚におちいって、しつこく捜す気になれない。

小学生でも採れるような、ジョウザン、アイノを腹一杯とってからでないと、確率の低いエゾには手が出にくい。H氏は確率の低いエゾに挑戦している。

アイノ、ジョウザン、が出ずに見捨てられた小枝、中枝からエゾの卵塊が発見された。枝の樹皮の皺曲部の下あたりや、裂目にひっそりとくっついている。

小生も、エゾははじめてであったがヒロオビと全く同じであり発見は容易でない、が発見した時は気分爽快な満足感を味わうのである。

一本の木から30卵のエゾを採卵し、二次的な副産物はこれぐらゐにして、H氏、O氏、と3人で主目的のフジに方向転換。こけむすブナの大樹には登るすべもなく、用意していたロープを下枝にからませて、引き裂くより難行苦行。1時間程の後、待望の卵を発見、下枝の良く延びた先端からウチワの骨のように広がった直径3ミリぐらゐの小枝に他の仲間よりは、ひとまわり大きい純白の卵を見つけることができた。

この時今日の採卵の目的は半ば達成されたのである。3時間余の行動の成果として、計5卵が採卵され、兵庫県の北の斜面に初夏ともなると幾多のゼフィルスの仲間に加って、ひとときわ高いブナの大樹の上を飛翔し

ていることが想像されるのである。

(採卵会の成果)	フジミドリシジミ	5卵
	アイノミドリシジミ	15卵
	ジョウザンミドリシジミ	150卵
	エゾミドリシジミ	55卵

(TAKAYUKI NIGAKI)〒671-15 姫路市

安富町大河弁獄7月上旬の蝶

広畑政己

大河弁獄は安富町関の西方に位置し、林田川に注ぐ支流の源にある。すぐとなりの雪彦山については言うまでもなく、ウスバシロチョウ、スギタニルリシジミなどの産地として古くから親しまれ、蝶類の調査も行き届いている。しかし山一つ隔てたこの溪谷へは採集者も少なく、これまで一編の報告もされていない。

筆者がこの溪谷を訪れたのは、ウラジロガシが自生しているという事実から、ヒサマツミドリシジミが棲息しているのではないかという憶測があったに他ならない。

標高200m～600mの溪谷には、ウラジロガシの他に、シラカシ、アラカシ、ケンボナシ、アカシデ、サワシバ、ケヤキ、カナクギノキ、ネムノキ、トネリコ、カラスザンショウ、ヤマザクラなどの樹木が繁茂し、景観美を成している。

この溪谷へは過去2度足を運んだが、いずれも冬期の調査で、夏のシーズンはこの度が初めてである。過去2度の冬期の調査では、メスアカミドリシジミの採卵という幸運に恵まれたが、念願のヒサマツミドリシジミの発見にまでは至らず、今回の調査でもウラジロガシが多い対岸の急斜面に入れず、前回と同じ結果に終わった。県下瀬戸内側からもヒサマツミドリシジミが発見されており、この地での発見を期したい。この度の調査で採集及び目撃した種を次の通り報告する。

採集及び目撃年月日……1978年7月8日

シジミチョウ科

ツバメシジミ、ウラキンシジミ、ムラサキシジミ

セセリチョウ科 シロチョウ科

ヘリグロチャバネセセリ キチョウ

ジャノメチョウ科

ヒメウラナミジャノメ

タテハチョウ科

イチモンジチョウ、サカハチチョウ、コミスジ。

キリシマミドリシジミの飼育について

佐々木薫

1. はじめに

当時小学二年生で大の虫好きだった長女と連れ立って春の三濃山へ昆虫採集に出かけ、初めてネットに入ったカラスアゲハの羽化直後の個体を手にした私は、その美しさの捕虜になり今年で6年目を迎えた蝶の愛好者です。

当初は成虫採集だけに熱中していた私も、ヒサマツミドリシジミとか、キリシマミドリシジミの類を採集する事の困難さを知り、3年前から飼育を始め、去年はヒサマツミドリシジミの飼育に成功したので、今年はキリシマミドリシジミの飼育を試みたところ、フ化率85%強という良い結果が得られた。これまで先輩諸氏が、数多く試みられ、フ化率の悪いことで定評のあるこの種だけに(同じ同好会蝶友の数名が私と同じ程度の卵を同じ時に採集し飼育したが、私以外の全員が失敗に終わったことから)是非今回の同好会誌発行にその経験談をという事から素人のまぐれ談を書く事になりました。専門的知識の無い小生のこと、そこは自己流の表現で卵採集より羽化迄の過程を書く事にしましたのでグラフと一諸に見て頂き、少しでも参考になれば幸いです。

2. 飼育に先だって

(1)卵採集の前に食樹のアラカシを一週間々隔位で取って来て廊下の中で瓶に挿し、野外より早く発芽させ、もし自然のアラカシやアカガシが芽を出す前にフ化した場合に備えて置きたい。

(2)卵の採集には53年4月1日に出かけて164卵採集することが出来た。

(3)小生は過去2年の経験から、卵の保存方法については早くから卵を採集して冷蔵庫で保存して来ましたが、どうもフ化率が良くないのではないかと思い、キリシマミドリシジミについては卵の採集期を友人と話し合って遅くし、冷蔵庫には入れないで、採集した卵はそのままタッパの底にティッシュペーパーを敷き、霧吹きで僅かに湿った程度にし、その上へ新芽のついたままの卵を置き、タッパの蓋を締め、室内(廊下)で保存した。廊下の中は午前中2～3時間程度は太陽が当たって、かなり暖かくなっている。

(4)タッパ1個には約20～30卵程度にしてあまり多くの卵を入れず、毎日必ず幼虫がフ化していないかを確認する作業をし易くしたい。